

リウマチ・膠原病内科

a. 体制

(1) リウマチ・膠原病内科の目標：

我々の科では個々の患者さんの直面する問題を真剣に取り上げ、分析し、十分な説明と同意のもとでエビデンスに基づいた最善の治療を行うことを理念とする。

リウマチ膠原病は同じ診断名でも患者さんひとりひとりで病気の活動後が違い、侵される臓器の種類およびその障害の程度が違います。また、患者さんの社会的立場も違います。患者さんひとりひとりに対応したオーダーメイド医療を目指す。

患者さんのよきパートナーとなれるかが重要です。信頼できるパートナーとなれるよう努力します。「患者さんに問題点を見つけ、それを解決するために研究心をもって活動する」という原点のもと、臨床研究を実行する。

(2) リウマチ・膠原病内科の方針および展望：

地域の先生方と連携を密として、大阪北地域のリウマチ膠原病医療の核となれるよう努力する。これまで同様、京都大学臨床免疫学教室との臨床検討会および臨床研究を推進する。

患者さんひとりひとりに対応したオーダーメイド医療を目指す。特に、新しい治療法の個人適応には充分のエビデンスの検討とインフォームドコンセントを得ることが前提です。

(3) リウマチ・膠原病内科の対象疾患

関節リウマチ/悪性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病、血管炎症候群（結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発動脈炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、高安動脈炎、巨細胞性動脈炎など）、ベーチェット病、シェーグレン症候群、成人スチル病、リウマチ性多発筋痛症、などを対象としている。

(4) 教育

当院は日本リウマチ学会教育施設として認定されている。井村および高橋は日本リウマチ学会専門医・指導医、藤田および中島は日本リウマチ学会専門医であり、日常の診療、定期的なカンファレンスを通じて研修医、学生の教育を行っている。井村は京都大学医学部臨床準教授であり、京都大学より教育研修を受け入れている。

(5) リウマチ膠原病教室の開催

2006年よりリウマチ膠原病教室を開催し、リウマチ膠原病疾患およびその治療に関する基礎的および最新の情報を患者さんに伝える機会を設けている。2019年度はミニ教室を9回に分けて開催した。（10回開催予定だったが、新型コロナウイルスの影響により1回休会）

(6) 院外活動および地域医療との係わり：

大阪バイオリジックフォーラムを2007年より開催し、生物製剤への理解を深める機会を作っている。2019年度は2020年1月11日に第13回大阪バイオリジックフォーラムを開催した。

(7) スタッフ 2019年度

主任部長 井村 嘉孝

医学博士

日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医、日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

副部長 藤田 昌昭

医学博士

日本内科学会認定医・指導医，日本リウマチ学会専門医・指導医・登録ソノグラファー
専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

副部長 高橋 令子

医学博士

日本内科学会認定医，日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員，日本臨床免疫学会評議員

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

副部長 中島 俊樹

医学博士

日本内科学会認定医・総合内科専門医，日本リウマチ学会専門医・登録ソノグラファー
専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

レジデント 中窪 悠登（住友病院へ連携研修として半年間出向）

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

レジデント 大橋倫子

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

レジデント 西川瑠璃子（住友病院より連携研修として半年間所属）

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

b. 診療実績

（1）外来診療体制（2019年度）

当科の外来は予約診と初診・当日診の2診療制だが，土曜は初診・当日診のみとしている。受診者数は一日約53名であった。

（2）外来診療統計（2019年4月1日より2020年3月31日）

外来受診者数（のべ数）14,329名，月平均1,194名

初診者数1,054名，月平均88名

（3）入院診療実績（2019年4月1日より2020年3月31日）

入院は主として全身性エリテマトーデス，関節リウマチをはじめとする膠原病に対して治療を行い，2018年度入院患者数は351名（他科からの転入含む），平均在院日数18.3日

2018年度の主な入院は：

関節リウマチ66名，全身性エリテマトーデス36名，多発性筋炎・皮膚筋炎35名，強皮症31名，混合性結合組織病7名，血管炎症候群87名，シェーグレン症候群3名，抗リン脂質抗体症候群7名，ベーチェット病3名，リウマチ性多発筋痛症14名，成人スチル病10名，脊椎関節炎4名，結晶誘発性滑膜炎8名，など。

c. 研究実績

【学会】

- 1 中島俊樹、中野友美子、辻本考平、藤田昌昭、井村嘉孝 高安動脈炎に対するトシリズマブの実臨床における効果 第63回日本リウマチ学会・学術集会 2019/4/16（京都）
- 2 中窪悠登、藤田昌昭、中島俊樹、中野友美子、井村嘉孝 ロスバスタチン内服後に発症した自己抗体陰性の壊死性ミオパチーの1例 第63回日本リウマチ学会・学術集会 2019/4/17（京都）

- 3 辻 英輝、中嶋 蘭、細野祐司、井村嘉孝、八木田正人、吉藤 元、平田信太郎、野島崇樹、杉山英二、八田和大、田口義夫、片山昌紀、谷澤公伸、半田知宏、久保 武、秋月修治、村上孝作、橋本 求、田中真生、大村浩一郎、三森経世 抗MDA5抗体陽性間質性肺炎合併皮膚筋炎患者における免疫抑制薬多剤併用療法の有用に関する多施設共同前向き研究 第63回日本リウマチ学会・学術集会 2019/4/17 (京都)

【論文】

- 1 Yamamoto H, Nakajima T, Kawahara R, Nakabo S, Hashimoto M, Yamamoto W, Masuda I, Ito H, Mimori T, Fujii Y. Evaluation of risk factors for atherosclerosis using carotid ultrasonography in Japanese patients with rheumatoid arthritis. *Int J Rheum Dis.* 2019 Jul;22(7):1312-1318.
- 2 Sumitomo R, Hirai T, Fujita M, Murakami H, Otake Y, Huang CL. PD-L1 expression on tumor-infiltrating immune cells is highly associated with M2 TAM and aggressive malignant potential in patients with resected non-small cell lung cancer. *Lung Cancer.* 2019 Oct;136:136-144.
- 3 Kawahara R, Nakabo S, Shimizu M, Yamamoto H, Sasai T, Nishida Y, Funakoshi S, Gon Y, Taniguchi M, Nakajima T, Hiwa R, Hashimoto M, Tomizawa T, Azukizawa M, Nishitani K, Murata K, Tanaka M, Ito H, Mimori T, Fujii Y. Feasibility of patient-oriented ultrasound joint selection: Cross-sectional observational study on rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatol.* 2019 Oct 28:1-7. [Epub ahead of print]
- 4 Sumitomo R, Hirai T, Fujita M, Murakami H, Otake Y, Huang CL. M2 tumor-associated macrophages promote tumor progression in non-small-cell lung cancer. *Exp Ther Med.* 2019 Dec;18(6):4490-4498.
- 5 Tsuji H, Nakashima R, Hosono Y, Imura Y, Yagita M, Yoshifuji H, Hirata S, Nojima T, Sugiyama E, Hatta K, Taguchi Y, Katayama M, Tanizawa K, Handa T, Uozumi R, Akizuki S, Murakami K, Hashimoto M, Tanaka M, Ohmura K, Mimori T. Multicenter Prospective Study of the Efficacy and Safety of Combined Immunosuppressive Therapy With High-Dose Glucocorticoid, Tacrolimus, and Cyclophosphamide in Interstitial Lung Diseases Accompanied by Anti-Melanoma Differentiation-Associated Gene 5-Positive Dermatomyositis. *Arthritis Rheumatol.* 2020 Mar;72(3):488-498.
- 6 林 綾乃、鈴木洋行、藤田昌昭、井村嘉孝、塚本達雄 血栓性微小血管症を伴う強皮症腎クリーゼに対して血漿交換が奏功した1例 日本アフェレシス学会雑誌 38巻3号 Page291-295

【研究課題】

- 1 インテグリン制御による新規抗リウマチ薬・抗炎症薬の開発 (藤田昌昭)
- 2 生物学的製剤使用関節リウマチ患者の長期安全性研究 (SECURE 研究) --- 多施設共同研究 (井村嘉孝)
- 3 抗アミノアシル tRNA 合成酵素抗体測定のための OJ 抗原精製と測定系の確立 (井村嘉孝)
- 4 抗MDA5陽性間質性肺炎合併皮膚筋炎に対する3剤併用療法プロトコルの有用性と安全性の検討

- 多施設共同研究
(井村嘉孝)
- 5 広域抗菌薬使用による腸内細菌叢への影響の検討
(辻本孝平)
- 6 急性炎症蛋白質制御による新規抗リウマチ薬・抗炎症薬の開発
(藤田昌昭)
- 7 我が国の若年全身性エリテマトーデス患者の現状と妊娠転帰を含む長期・短期予後に関する前向きコホート研究
--- 多施設共同研究
(井村嘉孝)
- 8 全身性エリテマトーデスにおける SOCS1 の役割の解明と治療への応用
(高橋令子)
- 9 ラパマイシンによる全身性エリテマトーデスの病態制御のメカニズムの解明
(高橋令子)
- 10 単量体 CRP の検出及び単量体 CRP 制御による新規抗炎症剤の開発
(藤田昌昭)